

TABLE FOR TWO

かわら版 Vol.11 2012年1月発行

自給自足を目指す タンザニア・ムボラでの学校給食

国立公園でのサファリや、キリマンジャロ、コーヒー栽培などで有名な、東アフリカ・インド洋沿岸に位置するタンザニア連合共和国。豊かな自然があふれるイメージの強いタンザニアですが、後発開発途上国(Least Developed Countries, LDCs)に位置づけられ、開発途上国の中でもとりわけ貧困解決が急務とされています。そのような状況のなか、TABLE FOR TWO(TFT)では2011年9月より、タンザニア西部タボラ州ムボラ地区にある17の小学校にて、学校給食プログラムの支援をスタートしました。

この地域での学校給食プログラムは、2010年以降中断されていましたが、地域住民や親、生徒からは給食の再開を求める声が高まっていました。TFTによる支援で給食が再開してから、小学校ではウガリと呼ばれるトウモロコシの粉をお湯で練って作られた主食(ウガンダやルワンダではポシヨと呼ばれるもの)と、豆や野菜が入ったスープが毎日提供されています。さらにコミュニティを積極的に巻き込むことも重視しています。地域住民や両親たちは、キャベツやトマト、さらにはビクトリア湖でとれる小魚などを給食の材料の一部として提供しています。このようなコミュニティの積極的なコミットは、給食の栄養価の改善に寄与しています。同時に、外部からの支援だけに頼らず、地域の力で学校給食を運営できるよう、自活能力を高めることも期待されています。



ムボラ地区イロラングル小学校

これまでに集まったご寄付(2012年1月6日現在)

1,257万8,612食

約5万7,000人の子どもの1年分の学校給食になります。

衛生教育のチカラ



ムボラ地区ムベンゲ小学校

ムボラ地区の小学校では、高学年の子どもたちが主体となり、衛生教育が行われています。サハラ以南アフリカの多くの国では、食事や飲料水に関わる病気が子どもたちの間で蔓延していますが、これらの多くは知識があれば防ぐことができます。「井戸から汲んできた水は、沸騰させた方がよい」「食べ物を保管するときは、虫除けの覆いを使う」といった基礎的な知識を、高学年の生徒たちが紙芝居や劇を通して広めています。このような衛生教育を行うことで、子どもたちだけでなく、家庭での衛生環境改善にも繋がることが期待されています。

TABLE FOR TWO事務局代表より

2年半ほど前に初めて、今回支援を開始したタンザニアのムボラ地区を訪問しました。車で移動していても、絶えず水分補給を必要とするほど乾燥しており、早魃の影響を肌で感じました。そのような過酷な環境下に暮らす中学生の男の子たちのグループが、完璧な英語で、憧れの国・日本のように、タンザニアを自分たちの力で発展させたいと、情熱的に語ってくれたのを思い出します。学校給食を通じて、こういったタンザニアの次世代を担う子ども、若者達と、TFT参加企業の皆様との交流が始まるのは本当に嬉しいことです。



(代表・小暮真久)

タンザニア連合共和国

- 首都:ドドマ
- 民族:スワ族、マコンデ族、チャガ族、ハヤ族など約130部族
- 言語:スワヒリ語(国語)、英語(公用語)

1985年の経済自由化以降、商品作物を中心とした農業、観光業、鉱業(金など)により、経済発展が進んでいる。ここ10年では、GDP実質成長率が平均約6%と推定されている。

